あり。本文四三六頁にして卷頭には詳細を極めたる目次と寫眞及地圖數葉を添ふ。（仁友社發行　價一、七〇〇）〔中村〕

●佛教史論　境野黃洋著

本書は嘗て著者が公にしたる佛教史に關する各種の論文十五篇を輯錄したるもの。其中「釋迦牟尼佛」、「涅槃經と佛身論の發達」、「數論と佛教との關係」、「禪に就いて」、「淨土宗の正統非正統の疑義」、「東大寺國分寺の教理」等の章に於ては主として教理に關する歷史的研究を示し、「達磨に就いて」、「大寺は大寺にあらず」、「奈良の二僧」、「行基菩薩傳」、「傳教大師に就いて」、「日蓮と親鸞」等の章に於ては史實の考證的研究を示せり。本書は著者が自ら宗教家たるの立脚點を離れずして、佛教の史的研究に努めたる點に於てその面目を窺ふべきものなり。（丙午出版社發行、價一、三〇）〔魚澄〕

●後北條氏民政史論　文學士　牧野純一著

奉公叢書第四編にして著者の明治四十三年、東京帝國大學の卒業論文を發行したるものなり。本書其第一編卽本文にては先づ第一章を「後北條氏概觀」とし關東の地理及歷史、早雲の出自の伊勢氏なる事より後北條氏が富國强兵なりし所以五ケ條を數へ、就中其民政の注意に値すべきことを言ひ、第二章「民政の主義」には大望ある英雄の民政に留意せし由來を述べ、早雲廿一ケ條を說き、第三章は「農業に關する民政」と題し、我國史に於て農政は卽ち民政なりとして租率の研究をなし、所謂四公六民法の說を確め後北條氏百年間之れを以て一貫せしは頗る寬大なるものなりとし豐臣氏、武田氏、長曾我部氏等の夫れと比較して後北條氏のよく關東の雄たらしめし原因を究め、附加稅にも言及し、稅制の運用に對する後北條氏の注意の周到なるを記し、又諸般保護制度を列擧し寬、嚴よく行はれしこと後北條氏民政の根本義なる事を例證す。第四章「工業に關する民政」に於ては諸工匠の保護を記し、第五章「商業に關する民政」にては商人の保護として宿場保護、市場保護、問屋の保護を說き、貨幣政策として撰錢の弊害救治に室町幕府の失敗、氏康の成功せしを記し、第六章「結論」として後北條氏民政の美は早雲一人の功に非ずして守成・繼承の功と相俟つべしとなす。しかも關東既往の歷史卽ち賴朝・泰時・時賴等の事蹟が吾妻鏡を通じて與へし感化の輕視すべからざるを說けるは注意に値すべく、又後北條氏が德川家康に於て名譽ある後繼者を得、後北條氏百年の民政は、關東に於ける武家政治の、光榮ある連鎖なりとして之に深き意義を認めんとせり。第二編は附錄にして第一編中に引用せる後北條氏民政史料主要文書貳百十通を收錄す。零碎なる古文書に基礎を置き此著を企てたる著者の眞摯なる態度